

2018年6月6日

愛知県教育委員会

教育長 平松直巳様
教育委員 大須賀憲太様
教育委員 広沢憲治様
教育委員 伊藤志のぶ様
教育委員 則竹伸也様
教育委員 廣美里様

愛知県教職員労働組合協議会
議長 岩澤弘之

全国学力・学習状況調査に関する要請書

日頃は、愛知県の教育行政にご尽力いただき、ありがとうございます。

今年度の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）は、国語・算数（数学）に理科を加えて実施されました。

子どもたちはだれもが、「授業が分かるようになりたい」「勉強が好きになりたい」と思っています。ところが、全国学力テストは、3時間あるいは4時間とテストが続きます。日頃これだけ続けてテストを受けることはありません。また、授業で学習したことのない難しい問題や、時間内に解くことができない分量の問題が多くあります。子どもたちは、テスト続きで疲れるだけでなく、問題が解けなくて学習意欲を低下させたりしています。質問紙で内心やプライバシーに関わることまで事細かに調査されることと併せて、子どもたちを苦しめるものとなっています。

昨年12月、福井県議会は、「福井県の教育行政の根本的見直しを求める意見書」を可決して、福井県教育委員会に提出しました。意見書は、「『学力日本一』を維持することが本県全域において教育現場に無言のプレッシャーを与え、教員、生徒双方のストレスの要因となっていると考える。」と指摘しています。これは、全国学力テストで競争させられていることがいかに教育をゆがめているかを示しているものです。

来年度、文部科学省は、すべての中学校で英語調査（読むこと・書くこと・聞くこと・話すこと）を実施する予定です。英語調査については、ただ単に国語・数学に加えて1教科増やすに留まらない問題があります。「話すこと」の調査は個別に行う必要があります。クラス数が多くなればなるほど必要時間が長くなります。いずれにしても、今までは1日で済んでいた調査を、2日間かけて行うこととなります。学校教育を遂行する上で大きな支障を来す事態になることが懸念されます。

子どもたちを苦しめ、競争をあおり、学校教育をゆがめる全国学力テストについて、以下のことを要請するものです。

記

- 1 全国学力テストを中止するよう文部科学省に要請すること
- 2 市町村および学校別の成績を公表しないこと
また、県の問題別平均正答率を公表しないこと
- 3 事前のテスト対策をしないよう市町村教育委員会を指導すること